

剣道大会における熱中症対策について

今治地区剣道連盟 山本省三

熱中症に関しては……

まず、事前準備として

- ①冷房の効いた一部屋を必ず用意しておくこと
- ②ペットボトルに塩水を入れたものを冷凍庫で凍らせておいて、最低6本用意しておくこと
頸動脈2本、わきの下2本、鼠蹊部2本を冷やすことは心がけたい
- ③コンビニで氷も確保しておけばなおさらよい。
- ④OS1は、用意しておく。点滴と同じ成分である。

-
- ①熱中症になった人の関係者を呼ぶ、
 - ②家族の連絡先を聞く、
 - ③本人が剣道着で倒れていることが多いので、友人などに本人の下着、着替えを用意させる。
 - ④冷房の効いた部屋で4人程度で様態を注視する。

-
- ①大会関係者に救急車を呼ぶことを伝える。
 - ②アキレス腫や骨折と違い、場合によっては一命を落とす可能性もあるのでためらいは禁物
 - ③大会関係者には、状況を逐一連絡する。
 - a:大会委員長
 - b:審判長
 - c:試合場審判主任上記には、必ず状況と決定対応を伝える。

-
- ①救急車を呼ぶ場合は、必ず一人責任者が救急車を呼ぶ。
(一度に何度も電話しない。また電話してないことも存在するので、必ず1名を任命して119番に電話すること)
 - ②救急車を呼ぶと同時に、出来れば10名の協力者を確保して、救急車が体育館の正門から、患者がいるところまで、出来るだけ救急隊員が迷わず速く来れるように軌道を確認し、協力者を立たせる。
 - ③階段などが多い会場もあるので、ベストな軌道を選択すること
 - ④当事者及び関係者は気が動転しているので、第3者が適切に対応する。
 - ⑤ここで、救急車が来るまでの時間が長く感じることが多い。
 - ⑥再度、救急車に電話した担当者に確認を必ず入れる。

-
- ①救急車がどこの病院に行くかを確認する。
 - ②関係者一人付添に乗る時に、患者の着替え及びお金も必ず同乗者に持たせる。
(患者本人の履物を忘れる場合が多いので注意する)
 - ③同乗者の連絡先と、大会本部にその後の様態を連絡するようお願いする。

-
- ①家族に連絡がつけば、家族に病院と様態を伝えること
 - ②入院などになれば、パジャマなどを用意することも付け加えること
-